

平成25年度 第2回 恵庭市中小企業振興審議会 会議録

- 日 時 平成26年2月7日(金) 10:00~11:30
- 場 所 恵庭市役所 3階 301・302会議室
- 出席者 委員) 行澤会長、中泉副会長、五十嵐委員、梅田委員、川原委員、北口委員、
佐藤(薫)委員、佐藤(正)委員、高原委員、松尾委員、丸山委員
市) 後藤経済部長、佐々木経済部次長、高澤商業労政課長、
依藤商業労政課主査、浅見商業労政課主事

■開会

■会長挨拶

※行澤会長から挨拶

■委員の自己紹介

【事務局】

役員改選等により、委員に入れ替わりがありましたので、一言ご挨拶を頂きたいと思います。

※初めて出席された委員から自己紹介

■議題(1) 中小企業振興に関する「キャッチフレーズ」の選考

【会長】

中小企業振興に関する「キャッチフレーズ」の選考について、事務局より説明願います。

【事務局】

昨年6月の第1回中小企業振興審議会で、中小企業振興について親しみやすいキャッチフレーズを考えてみてはどうかというご意見を受け、9月に市の広報で条例の周知とキャッチフレーズの募集を行い、44点の応募がありました。その後、12月に審議会委員に対し、適当と思われる作品3点に投票頂き、投票の多かった9作品について、本日の審議会で適当と思われる作品2点に投票頂き決定したいと思います。

なお、選考された作品については、今後3月に作成する条例制定のポスターに掲載したいと考えております。また、平成26年度も何らかの形で条例について、市民周知を行って行きたいと考えております。投票は、お手元の最終選考投票用紙に○をつけて頂きますようお願い致します。

【会長】

ただいまの事務局の説明について、ご意見・ご質問ございますか。(意見・質問なし)

それでは、選考を行ってください。

(各委員選考し、投票用紙を事務局で回収)

■議題（２） （仮称）恵庭市「中小企業振興基本計画」策定方針及びスケジュールについて

【会長】

それでは、事務局が集計している間、次の議題に入りたいと思います。

（仮称）恵庭市「中小企業振興基本計画」の策定について、事務局より説明願います。

【事務局】

○ （仮称）恵庭市「中小企業振興基本計画」の策定に向けた方針（案）（別紙1）について

- ・策定の方向性について
- ・計画期間について：平成27年度～平成31年度（5か年）
- ・計画が対象とする産業について
- ・策定体制と主なスケジュールについて
- ・「キャッチフレーズ」の選考について（議題（1）にて選考実施）
- ・基本計画のイメージについて
- ・策定フロー
- ・恵庭市統計書から見た恵庭市の経済と産業の現状について（資料2）
- ・（仮称）恵庭市「中小企業振興基本計画」の策定背景と現状、その必要性（骨子素案文）

【事務局】

本日の審議会は、フロー図で言う策定方針の検討・キャッチフレーズの選考の段階です。策定背景と現状、必要性について、今後さらに現状の分析を行っていき、精査したいと考えていますが、今回ご提示させて頂いたものを基本として考えていきたいと思っております。

【事務局】

本日の審議会では、主に計画期間、策定体制についてご検討、ご指摘を頂ければ幸いです。

【会長】

ただいまの事務局の説明に対してご質問、ご意見はございますか。

【委員】

2点質問があります。1つは、市内中小企業者への調査について、事務局として具体的にどういうイメージで実施しようと思っているのかということ。もう1つは、審議会以外にフランクに話し合える場を作る必要があり、方針の方向性にも「連携・協働して取り組む」と書いておられるので、具体的にどのような連携・協働を考えているのでしょうか。

【事務局】

アンケートについては、市内約1,000件の企業に対し、経営状況、自社の強み・弱み、景況感、後継者・雇用の問題、今後の課題といった内容を調査したいと考えています。

近年、消費者調査は市でも「まちづくり委員会」等で取り組んでいるところですが、中小企業に対する調査は不足していたので、今回この調査を実施することで、中小企業者の意見・要望を把握し、本計画に活かしていきたいと考えています。

また、有識者・事業者の意見について、審議会以外にも範囲を広げた会議の必要性は内部でも認識しております。ただ、どういう構成で何回開催するといった、具体的なことは決まっていな

いので、いま少し時間を頂きたいと思います。

【会長】

個人的に聞くのではなく、会議等で集まって議論することで様々な角度からの意見が出てくると思います。例えば産業振興の協議会や会議を複数回開催し、その声が審議会にかかってくるという仕組みができるといいと感じております。

【事務局】

例えば、恵庭市商店会連合会をはじめとして、市内には様々な既成の商業団体がありますので、そうしたネットワークを活用して、何がしかの場を設けたいと考えております。

【委員】

基礎調査に関して、条例制定の際に私も同行し、何件かの企業に直接ヒアリングを行いました。1,000もの会社に対して全て行うということにはなりません、実態を正確に把握するためには大変重要だと思います。

審議会以外の会議についても、連携・協働を考える上では不可欠だと思います。そこで出た様々な意見を、恵庭市がどう上手くまとめていくかが重要になってきます。

【委員】

基本目標について、何らかの数値を盛り込むのでしょうか。数値を盛り込むと行政としては様々な縛りが出てくるとは思いますが、一方で評価のことを考えると、数値があった方が評価しやすいと思います。

そして、評価の方法について、私共審議会だけではなく、一番大事なのはユーザーの評価です。施策を活用された中小企業の声の聞いて、検証することが大切ではないかと思えます。

また、検証について、計画は5か年ということですが、検証の頻度は毎年度なのか、複数年でまとめて実施するのか教えてください。

【事務局】

まず、数値ということですが、基本目標自体に数値を入れるということは考えておりませんでした。基本目標というのは、恵庭市が中小企業振興に取り組む上での大きなテーマと考えております。その目標に基づき、個別の具体的施策が出てくるというイメージです。

検証の頻度については、毎年度とりまとめ、当初の計画では審議会に議題として上げて、評価して頂くことで考えておりました。

ユーザーの評価が必要というご意見はもっともだと思いますので、手法については審議会の中でもご提案頂ければと思います。

【事務局】

市内部でも、数値目標を出すべきという声が上がっています。しかし、例えば何をもって商業の振興と言えるのか。売上高を数値目標にした場合、店舗数がこれだけ増減していますので、単純に売上が伸びていても店舗数が減っている場合は、単純に大型店に一極集中しているだけではないかという問題もありますので、適切な指標を選定するのが難しいと思います。

中小企業側の評価について、昨年私共も、市内のパン店のマップを作成し、数ヵ月後にアンケ

ートを取ると、4～5件くらいのパン店から売上が伸びたという回答を頂いております。やはり実施したことに対する評価はきちんと検証していきたいと思っております。

【委員】

現政権の政策、いわゆる「再興戦略」の中でも、例えば開業率、海外展開の企業数、黒字化の率などの目標を立てているところです。その目標に至らなかった場合どうするか、出せる数値と出せない数値があるという課題はありますが、一定の数値目標があると評価しやすいと思います。

【事務局】

開業率に関しては、我々も「恵庭起業塾」を実施していますので、その受講生の中からどのくらいの方が起業したかということは把握しています。ただ、起業してもすぐに事業閉鎖する場合も考えられます。他にも指標があればぜひ教えていただいて、その数値を適用できるかどうかという問題もありますが、参考にさせて頂きたいと思います。

【会長】

単純に小売業というと、大型店も個人商店も全て含んだ数値になってしまいます。中小企業、小規模企業の事業所数や従業員数の数もそうですが、開業率が廃業率を上回るような施策について国としても目標を立てています。それに沿って、恵庭市は何が必要なのか、ここで議論しなくてはいけません。そして、開業率が廃業率を上回るような仕組みを作っていくことが必要です。まして、私たち恵庭市は道央の中心に位置しているわけですから、ここで廃業率が上回るようではいけない。そのためにも、数値目標は出す必要があると思います。

その他、税収の推移、個店の売上・所得等をアンケート等で調査する等、一定の数値目標を立て、「見える化」を行うべきです。

恵庭市でも、「恵庭起業塾」等、近年創業支援に取り組んでおられますが、地方から来た方が恵庭で起業しやすい地域づくりが重要だと思えます。消費行動を考えた時、現代はインターネットの普及、東京への一極集中という状態で、これを打開するには、若者が恵庭で開業しやすい仕組みを作ることが必要だと思えます。例えば開業支援金など、様々な支援策があると思えますが、そうした制度を整備して、札幌・千歳へのアクセスの良さもPRしていくべきだと思えます。

【委員】

森林組合も参加企業に入れるべきだと思えます。恵庭では小さい規模ですが、林業という分野を考えたとき、国のこれまでの施策の影響が色濃く出ているものだと思います。今後地域がどうやってこの問題を捉えていくのか、ぜひ考えて頂きたいということを提案します。

また、中小企業振興の背景を考えた時、大店法の改正以降、地方経済の流れが激変し、大企業の進出によって中小企業が地域経済から追い出されてしまうという問題が現実としてあります。中小企業振興をどうやってまちづくりの中に位置づけるかが大事だと思えます。

農業に関しても、6次産業化など机上の議論は大いにされていますが、農業者にとっては、3月の段階で一年の作付計画・販売先を決めていかなければならず、年の途中で、まちなイベントや事業等で、新たに「これが欲しい」と言われても、正直そこまで余裕があるわけではありません。結果として対応できず、異業種の方に農業者は自分たちの要望に対応してもらえないという

印象を与えてしまっています。

今取り組んでおられる中小企業振興は、非常に大切なことだと思います。しかし、まちの暮らしの基本、ベースとなっているのはどの階層なのかということをし、しっかりと中小企業振興基本計画の中にも盛り込んで頂き、企業誘致と中小企業振興のバランス、目指す産業構造の形を整理しなくては、机上の空論で終わってしまうと思います。この審議会の議論に留まらず、総合計画の中でどう位置づけるのか重要となってきます。

【事務局】

今後の恵庭市の経済施策は中小企業振興が柱だと考えております。観光や異業種交流についても、全て中小企業振興に関連した取り組みということで、発展させていきたいと思っております。企業誘致と中小企業振興のバランスについても非常に難しい問題があります。市内中小企業の小売店の建物面積当たりの売上はずっと下がっていると思います。また、平成3年以降、恵庭市から市外に消費する率が急に20%を超えました。それ以降、今日まで20%~30%で一定です。計算上、約200億円が毎年市外に流出しています。今後どうやって企業間取引や、中小企業の経済的自立を促すかといった問題があります。

【委員】

消費の市外流出に歯止めがきかず、個の力では太刀打ちできない状態にあります。私達商業者も、地域の皆様に地元の店がなくなったら困るということを直接声かけできる動きをしていこうとしています。先日恵庭市広報に今回の条例に関して特集記事が出ましたが、市に問い合わせはありましたか？また、地元で買い物をすると、まちがこのように動くということが市民の方にわかるような仕組みを作って頂き、私達もお客様に対してPRしていきたいと思っております。

【委員】

先ほどご意見があった森林組合については、私もぜひ入っていただいた方が良いと思います。下川町のように、森林組合が核となり、環境都市としてまちづくりを進めている自治体もあります。また、統計資料については、先日平成24年経済センサスの数値が公表されていますので、それも活用してはいかがでしょうか。

【会長】

森林組合はこの審議会に入れるべきということでしょうか、それとも調査先として入れるべきということでしょうか。

【委員】

調査先ということでも良いと思います。恵庭市は水質に恵まれています、それも森林があるおかげです。盤尻地区は、平成16年の台風被害で針葉樹が大規模に倒木しましたが、その後にもまた針葉樹を植林しています。針葉樹の場合、一般的に土壌は酸性になってしまいます。広葉樹であれば、土壌への還元が良いのです。最近、鹿・熊などが毎年どンドン市街地に下りてきていますが、その背景には、かつては動物たちを育てる広葉樹が山林にあったのが、近年広葉樹が減少していることがあると思います。環境、産業、様々な観点からも、森林組合の役割はまちづくり、経済にとって非常に重要だと考えています。

【会長】

本審議会の委員の数は条例で決められております。審議会の委員として森林組合の方に入っていただくのか、審議会の中で意見を聞く方法、もしくは何かしらの協議会を作り、その中で意見を聞く方法が考えられますので、事務局で検討願います。

【事務局】

観光・環境の部分で森林組合の役割が重要になると思いますので、何らかの協議会に入っているのが良いかなと思います。いずれにしても検討致します。

【事務局】

地域資源を使ったものづくりにつながるお話かと思えます。その点は、昨年度のシンポジウムの際に小磯先生もおっしゃっていたポイントでもありますので、ものづくりをすることで、地域内の連携を高める域内循環をどう高めていくか、そしてその利益をどう高めていくかということを考えていきたいと思えます。

現状、恵庭市はものづくりに対しての支援が少ない状態です。今後、もう少しものづくりに視点を置いた施策を講じるのも中小企業振興の上での一つの方法かと思っております。

【会長】

「産学連携」という言葉を使って頂いておりますが、「産学官金連携」としてはいかがでしょうか。金融機関の協力も中小企業振興には重要だと思っております。

もう一点、工事の発注や物品調達について、地元中小企業の受注拡大を目標に入れて頂けるのか、これについては市民からもかなり声があがっている部分でありますので、既に取り組んで頂いている部分ではあると思えますが、数値目標として示して頂けると良いかと思っております。

【事務局】

市役所発注の工事・物品に関しては、業種によって難しい部分もありますが、我々もかなり努力しているところでございます。今回はデータとして載せていませんが、他市町村では掲載している例もございますので、金額なのか件数なのかという問題はありますが、それもきちんと押さえたいと思っております。

【委員】

私はこれまで道外に住んでいて、北海道に来た時に行くのは札幌か千歳くらいでした。恵庭は一体何があるのかと考えた時、やはり第一にJRの駅ではないかと思えます。来恵された方に対して、駅でこのまちに何があるかをもう少し伝えることが必要ではないかと思っており、具体的な方法としてはJRさんにつながりを持たせてもらうような教宣活動が必要だと思えます。例えば、季節に応じたPRができると、駅を降りて行ってみようかなという気持ちになります。せっかく良い地理条件にあるので、そうしたPRに力を入れてはどうかと思えます。

【事務局】

現在、恵庭駅の下にPRの場所を設けています。中小企業振興を進める上では情報発信が重要だと思っておりますので、おっしゃって頂いた視点も忘れないで取り組んでいきたいと思えます。

【委員】

今は恵庭駅で快速も停まるので、私の場合東京で午後から会議があることも多いのですが、日帰りができます。また、恵庭は日本海側に比べ雪害が少なく、空港から快速で13分で着くというのは、ビジネスマンにとってはこの上ないメリットです。そして、宅地も駅周辺に集中していますので、駅から自宅まで長時間かかるということも少ない。札幌圏の中でも、通勤・ビジネスの上で大きなチャンスのあるまちだということをもっとPRしていくべきだと思います。この全道屈指のアクセス性の良さを、中小企業振興の上でも活かしていくべきではないでしょうか。

【会長】

札幌で地下鉄やバスを乗り換えて動くよりも、かえって恵庭の方が動きやすいという声もあります。また、札幌よりも地価が安い点も、ビジネスにとっては非常に有利な点だと感じています。

【事務局】

PRに関して、昨年経済部で観光の関係で広告に関する予算をつけて、観光やパンのMAPを作成しました。これがテレビやラジオ、雑誌に取り上げられ、取材がかなり多くなりました。例えば春に「じゃらん」に掲載された次の週の土日だけで、300人以上の方が恵庭に来ております。こうした広告の部分は、今まで市でやっていない部分でありました。非常に反響が大きかったので、もっと力を入れていきたいと思っており、来年度も予算を拡大して実施していきます。

また、会長からお話のあった地価の部分、隣接自治体に比べても安価になっているのは確かです。坪単価で10万円以上の宅地はおそらく恵み野と黄金、一部の商業用地くらいかと思えます。そして、恵庭の特徴として、進出頂いている大企業も、恵庭に残りたがる傾向が強いです。地理的な部分、生活利便機能や気候を背景とした住環境の良さが非常に喜ばれています。しかしその点をしっかりと宣伝できていなかった、これをしっかりとPRして「通過するまち」から「溜まる、溜まるまち」に持っていきたいと思っています。この「溜まる、溜まるまち」になるためには、地元中小企業や商店の振興が欠かせません。

ご発言のあった、良いところを前面に出して中小企業振興に結び付ける発想を、この中小企業振興基本計画の中にも盛り込んでいきたいと思えます。

【委員】

本計画に盛り込む施策は、市で実施するものが中心となるのでしょうか。

【事務局】

基本的には市が行う施策が盛り込まれます。但し、今回の中小企業を対象とした調査により、様々なニーズが入ってくると思えます。これを5年間の中でできるかどうかについて、しっかりと検討していかなければいけません。基本計画については、考え方だけではなく、より具体的な施策を載せていきたいと思えます。

【事務局】

以前の審議会でもお話があったかと思いますが、計画を作りながら実施していくこととなっておりますので、随時、計画のこの部分に位置づけられた施策だということを説明できるように進めていきたいと思っています。国の施策によっては大きく影響を受ける点もあるかと思えますので、それらに則った形で進めて参りたいと考えています。

【委員】

例えば国や道、あるいは日本商工会議所のメニューや民間の力の活用も考えられますので、計画ではこれらを具体的に盛り込んだ書き方をされるか、もしくはそうした施策をイメージした書き方をされるのか、いずれにしても市の施策だけでは限界があると思います。

【事務局】

今後研究させて頂きたいと思います。できるだけ広く活用できる形にしたいと思います。

【会長】

いま、計画の策定について様々なご意見がありました。大きなポイントとしては、できるだけ数値目標を立てるということ、森林組合の方と意見を共有できる場を作るということ、そして協議会や振興会議のような新たな組織を作り議論していくということでした。

■議題（3） その他

【事務局】

先ほどキャッチフレーズの投票を頂いた結果がまとまりました。投票の結果、No.2の「ゆたかさを 描く恵庭の まちづくり」に、最多得票（6票）が集まりましたので、これをキャッチフレーズにしたいと考えております。

【会長】

事務局から報告があった通り、「ゆたかさを 描く恵庭の まちづくり」に、キャッチフレーズを決定してよろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、このキャッチフレーズに決定したいと思います。

その他、ご意見等ございましたらお願い致します。

【委員】

本日初めて参加させて頂きました。本計画の策定にあたっては、策定までの経過が重要だと思います。先ほどアンケートのお話がありましたが、いかに中小企業の方、市民の方の意見を吸い上げるかが重要であり、何回かの議論を持つというお話は出ていましたが、懇親を持てる場も重要ではないかと考えておりました。例えばシンポジウム等を企画して、終了後にシンポジウムのテーマを題材とした懇親会を開催し意見を吸い上げ、回数を重ねることで様々な問題点や改善点が沢山出てくるのではないかと思います。

キャッチフレーズも決まり、これから5年間、本計画をまちづくりに活かしていくことと思いますので、いろいろと勉強させて頂きながら参加したいと思います。

【委員】

数値目標を入れるかどうかというのが大きな議題となっていました。道でも様々な計画を策定しており、計画が実行されているか議論される場面が多いです。そこで、この何年かはかならず数値目標を出しているという経緯もあります。恵庭市でも、市民の方々に対する説明責任という視点からも、何らかの形で数値目標を提示できる形をぜひ考えて頂きたいと思います。

【委員】

数値目標を達成できなかった時に誰が責任を取るのかという話ではなく、その時々で変えていけば良いものだと思いますし、仮に達成できなかった場合は何が課題で、次の5年間にどう取り組んでいくのかというためのものですので、ぜひ数値目標を入れてもらいたいと思います。

【委員】

消費者の立場として、地域商店街を利用したい気持ちは大いにあります。一方、大型店に行くのと全て揃ってしまう利便性があるので、ついつい大型店で消費をしてしまいがちですが、高齢になるにつれ自分で運転して大型店に行くこともできなくなりますので、地域が活性化していかないといけないと思います。いかにして消費者の気持ちを反映できるかも一つの大きな課題だと思います。個店は個店で良いのですが、みんなが協力して何かできないかなということも常に頭にはあります。高齢者に優しいまちづくりについてもぜひ取り組んで頂きたいと思っています。

【副会長】

商工会議所は当然中小企業の集まりであります。今策定されようとしている計画も、非常に今後恵庭の中小企業にとって力となるものと認識しております。商工会議所の各部会長とも協議をしながら、商工会議所としての方向性も出し、皆様のご意見も反映しながら、早めに恵庭市の経済に反映できる形にできればと思っております。

【事務局】

数値目標については、条例にもそれぞれの「責務」ということが書かれており、恵庭市、中小企業、大企業、関係諸団体それぞれが責務に基づき条例を具現化していくこととなりますので、数値目標を上げるということは、それぞれが責務を持って数値目標を設定していくこととなります。そういったところも、今後聞き取りしながら進めていきたいと思っています。

【事務局】

本審議会ですが、任期は2年となっており、前回の改選が平成24年4月1日となっています。平成24年当時は「恵庭市商工業振興協議会」となっておりましたが、その際の委員の方に審議会に移行後もそのまま委員となって頂いていたところです。これが、今年の3月末で任期切れとなり、4月からはまた2年間新たな委員さんをお願いすることとなります。引き続き、それぞれの団体の代表者の方をお願いをしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【事務局】

次回審議会について、4月から8月の間に中小企業に対する調査を進めますので、その取り組みがある程度見えた段階で開催したいと考えております。その際にまたご案内申し上げますので、よろしくお願ひします。

【会長】

不慣れな点があり、皆様のご意見をどこまで汲み取れたかわかりませんが、中小企業振興基本条例が施行され、これからがスタートだと感じております。こうした会議、またどんな時でも中小企業を中心に考えられるまちづくりができれば、間違いなくこのまちは発展していくと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。